No.169
公民館だより
令和２年７月
宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

就任のご挨拶

由良地区公民館長　**千坂幸雄**

新型コロナウイルスの感染者が、５月13日現在、世界全体で４２７万７８３２人になり、日本でも１万６７８８人で流行の兆しが見えてから４ヶ月目に入り生活に大きな影響が出ています。全世界の協力でこのウイルスに打ち勝ち、普段の生活に早く戻りたいものです。

さて、この度、磯田館長の退任により後任として就任することになりました。平成27年度から令和元年度までの５年間、公民館主事として活動させていただきましたが、皆様のためにどれだけのことができたでしょうか。

５年間の反省をもとに今年度からの公民館事業につきまして、その思いを述べさせていただきます。

平成14年に全国優良公民館表彰を受けましたが、由良ヶ嶽登山と公民館だよりの活動が高く評価されたと聞いています。

この二つの事業の継承と運動会及び文化祭事業を柱にして、各種事業を行っていきます。

今年度の事業は、新型コロナウイルス感染の状況次第のところがあり、今までにも由良ヶ嶽登山とグラウンドゴルフを中止にいたしました。その後の事業につきましても中止や延期になることがあると思われます。

・昨年度と変わったところは
・盆踊りをふるさと祭りの中で行うこと。（検討中）

昨年までは松原寺において子供地蔵盆の後に実施していましたが、参加者・見学者が非常に少ない状況です。由良の盆踊りは無形文化財として受け継いでいきたい。

・文化祭をはまの子体育館で行うこと。

由良地区公民館は２階に展示場があるため、階段の昇り降りが辛くて危険という意見を多くいただいています。

・ウォーキングをお出かけウォーキングにしぼったこと。

地区内ウォーキングの参加者が少なく、各自の計画で歩かれている方が多くおられます。

・駅前通りの美化活動を行うこと。

駅前の桜並木の下に草が生え、せっかくの桜並木が気持ちよく通行できません。

・運動会は今年度は行わず、来年度実施にすることにしました。

また、子供たちの成長を願い、子供たちが参加する事業を模索していくとともに今ある事業の中でも子供たちが参加しやすい事業にしていきます。宮津市の学校では今年度からコミュニティスクールの取り組みが開始されます。地域がどのように学校と連携して子供たちの成長に寄与できるのかを考えていきます。

どの事業におきましても皆様のご協力なしにはできません。自治連合会や各種団体との連携を大切にして進めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

はまの子グラウンドの整地や草刈りをしていただいている皆様に感謝いたします。遊具のところも草刈りをしていただいているおかげで子供たちが親と一緒に楽しく過ごしているところをよく見かけます。

由良地区公民館　運営審議会委員（順不同・敬称略）

今年度の役員

団体名	氏名	団体名	氏名
自治連合会　会長	藤本　長壽	栗田中学校ＰＴＡ副会長	中西　新一
脇自治会　会長	山本　正博	栗田小学校ＰＴＡ副会長	山田八十美
宮本自治会　会長	亀井　正一	由良松寿会　会長	山田　耕助
浜野路自治会　会長	大森　義彦	由良観光組合　組合長	田中　昭彦
港自治会　会長	酒本　茂樹	由良実業界　会長	岡本　康一
下石浦自治会　会長	岸田　剛	由良子供会連絡協議会会長	山本　隆教
上石浦自治会　会長	山下　浩二	由良地区公民館　館長	千坂　幸雄
前公民館長	磯田　充亮	由良地区公民館　主事	山下まさ代
人権擁護委員	大森日向子		

由良地区公民館　役員（順不同・敬称略）

◎印：分館長代表、各部の部長　○印：副代表、各部の副部長

公民館長　千坂　幸雄　　主　事　山下まさ代

地区	分館長	文化部	体育部
脇	岡本　康一	中西　衛 濱本　嘉彦	松林　晋吾 實川　紀子 ○野津　雄大
宮本	◎川端　利宏	枡岡さとみ 大石　美雪 山本　隆教	中西　一成 中垣　源 永井　悠也
浜野路	○中西　泰之	前田　敏哉 山口　恭子 ○中西　保	◎吉成　博一 玉垣　光紹 吉田　有紀 森田美砂子
港	小室　博嗣	山下　剛敏 ◎山田八十美	川崎　直樹 小室　和子
下石浦	新宮　恒一	蒲原　順一	野村　馨 野村　智華
上石浦	山下　正貴	山下真寿美	野村　雄治

由良地区公民館　事業計画

今年度の事業

文化部

期　　日	行　事　内　容
未定	盆踊り（会場：未定）
１１月　８日（日）	文化祭**（会場：はまの子体育館）**
１２月　５日（土）	しめ縄講習会
１２月１３日（日）	子供料理教室「餅つき」（子供会共催）
１月上旬	囲碁大会（囲碁同好会共催）
未定	人権問題研修会
年３回（７月・１１月・３月）	公民館だより発行

体育部

期　　日	行　事　内　容
４月２９日（月）８：３０	由良ヶ嶽登山　**中 止**
６月　７日（日）９：００	グラウンドゴルフ大会（個人戦）　**中 止**
７月１２日（日）８：３０	四部対抗バレーボール大会〈ビーチボールバレー〉　**中止**
８月　９日（日）８：００	四部対抗ソフトボール大会（自治連合会共催）
１０月２４日（土）午前	グラウンドゴルフ大会（団体戦）
１月～３月	卓球教室（土曜日　連続講座）
４月下旬から１０月	駅前通桜の木周囲の除草（公民館役員による美化活動）

健康広場　（ウォーキングを中心に）

期　　日	行　事　内　容
１１月２１日（土）	お出かけウォーキング
１２月　６日（日）	８：３０～　七曲八峠ウォーキング
３月　７日（日）	お出かけウォーキング

その他

・巡回ニュースポーツ
・由良ヶ嶽登山道整備作業　公民館、自治連、観光組合
・グラウンド除草作業　　９月　６日（日）１７：００～
※由良地区運動会…来年度実施

行事報告

主事　山下まさ代

～～令和元年度行事～～

◎卓球教室

日時　1月～2月
　　午後2時～午後4時
場所　由良地区公民館大会議室
1回　1月18日(土)8名
2回　1月25日(土)6名
3回　2月1日(土)7名
4回　2月15日(土)7名
5回　2月22日(土)8名
6回　2月29日(土)6名

◎由良地区健康広場ウォーキング

●2月のウォーキング
日時　2月4日(火)
　　午前9時～午前9時40分
場所　由良地区内
　　(森ヶ鼻コース)
参加者数　5名

風もなく爽やかなウォーキング日和。森ヶ鼻コースは2.5 kmですが、もう少し先の石浦地区近くまで歩きました。緑の植物を眺めながら歩き、心も軽く気持ちの良さを感じました。

歩数　4992歩
歩行距離　3.1 km

●3月のウォーキング
日時　3月3日(火)
　　午前9時～午前9時45分
場所　山小屋コース
参加者数　5名

天候曇り。途中から霧雨が少し。気温10度。少し寒さを感じましたが、歩いていると体全体がポカポカしだしました。

新型コロナウイルスに注意しながらの行動でした。

梅や椿、サザンカがきれいな由良の里を満喫できました。

歩数　4227歩
歩行距離　3.3 km

～～令和2年度行事～～

◎第54回由良ヶ嶽登山

4月29日に予定していましたが、残念ながら新型コロナウイルス感染症対策のため中止となりました。

その他6月予定の「グラウンドゴルフ大会(個人戦)」、7月予定の四部対抗バレーボール大会も中止せざるを得なくなりました。

令和2年3月25日付
京都新聞にこんな記事が

由良ヶ嶽は、洋上からそびえ立つような山容から「丹後富士」とも呼ばれる。山上は、天橋立を望む西峰と、由良川河口域を見下ろす東峰があり、二つの眺めが楽しめる。東峰の頂には、小高く積み上げられた石垣の上に、虚空蔵菩薩が祭られている。13歳の春に虚空蔵さんから知恵を授かる「十三歳参り」が、かつてはこの山でも行われ、少年少女たちが願掛けに石を持っても登ったという。大人への階段を一歩ずつ確かめながら、頂をめざしたのだろう。

退任のあいさつ

磯田充亮

新型コロナの感染拡大が世界的に深刻化し、日本でも多大な感染が発生しました。歴史を振り返れば必ず類似の事案が多く発生しています。人類はそのたび学習し対処して来ました。それぞれの立場を理解し、コロナウィルス撲滅策を最大限に発揮し早期に収束に向かうことを願っております。

さて、私儀この度令和2年3月末をもちまして、任期満了により、公民館長を辞任することになりました。任期中は地域の皆からは多大なるご理解とご協力を賜り続けましたことを、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。公民館長としては未熟な点や、至らぬ点も多々あったことと思いますが、地域の皆様から支えられて、公民館活動を続けてこられました。多大なるご支援もいただきましたことを感謝いたします。

辞任いたしますが、これからも地域の活動に積極的に参加してまいります。公民館長2年、主事10年間勤めさせていただいた経験を活かしながら、新しい公民館長のもとで、公民館の目標である「明るく楽しい地域」になりますように、微力ながら貢献していけたらと願っております。

「明るく楽しい地域」づくりは、地域の皆様一人一人のご理解とご協力が何よりも大切です。どうぞ、これからもよろしくお願いします。

由良地区公民館

新米主事

よろしくお願いします

主事　山下まさ代

～朝日に　はゆる由良の嶺
萬波はるけき　日本海
正気あふるる　この里に
生い立つ我ら　幸多し～

長い歴史に幕を閉じ、もう聞くことがなくなった由良小学校の校歌。閉校してから早7年が経ちました。石浦から大きなランドセルを背負って通った山道。帰りには落ち葉や木の実を拾いながら歩いた道。中学年?くらいからは自転車通学。学校給食が始まったのもその頃。夏休み前には「肝油」をもらうのが楽しみでした。遠足で由良川鉄橋を歩いたときのスリル。高学年で登った由良ヶ嶽山頂の爽快さ。また、学校の横には滅多に行けない駄菓子屋さん、駅前にはうどん屋さんがありました。等々、小学校時代の思い出はたくさんありますが、その後の思い出はといえば…学業?と仕事で由良地区の思い出は残念ながらあまり思い出せません。この地に生まれ、育った私ですが、地区内のことをあまり知りません。こんな私に何が出来るのかわかりませんが、少しでもお役にたてればと思っています。老若男女みんなが生き生きと楽しく暮らせるよう、横のつながりを大切にして、みんなの公民館活動がさらに充実発展していけるよう微力ですがお手伝いさせていただきます。よろしくお願いします。

私のような思い出少ない人間でなく、大きくなった時由良のことがたくさん語れ、由良の地が好きでここで生活したいと思えるような子供たちが育つ地域になればと願います。

皆様こんにちは

由良自治連合会　会長　藤本長壽

今年２０２０年は、日本の東京で再びオリンピック・パラリンピックが開催されるはずでした。私達は五十六年ぶり二回目の日本でのオリンピック開催に誇りと喜びで本当に心より楽しみにしていました。しかし、二月頃より急に新型コロナウィルス感染症が報道されはじめ、オリンピックは一年延期となりました。

私達の日常生活もまさか外出自粛や緊急事態宣言が出るとは予想だにできませんでした。現在は緊急事態宣言は解除されましたがその被害は日本だけにとどまらず世界中で現在も猛威をふるい続けています。

緊急事態宣言解除の日まで、何をすれば良いのか分かりませんでしたが、いつの間にか自粛生活が身について、人との接触や外出も避けるようになり気がつけば自然にマスクが手放せなくなりました。

宮津では感染者は０人でありましたが緊急事態宣言中は施設の閉鎖・企業や店も休業・行事や集会は中止、学校は長期の休校になり園児から生徒まで家の中で過ごして本当に大変だったようです。この様に市民生活にも大きく影響が出ました。

緊急事態宣言が解除されてもまだまだ収束できた訳ではなく、今後も第二波・三波の感染があることを想定し、気を緩めることなく生活をしなければと思います。

しかし、この新型コロナウイルス感染禍は単に「コロナで大変だったね」というだけでなく、これからの私達の健康や生活、教育、経済に大きな指標と変化をより具体的に示してくれた様に思いました。

教育や仕事で、オンライン化等が急速に普及し、今までの私達の生活の中では考えられなかったことが、この感染禍の中で緊急対応の第一線で主役を務めていたことに私は大変驚きました。

アナログからデジタルへと時代は大きく変化し、一瞬にして世界に情報も広がり、私の様なアナログ（古い考え）人間はなかなかついていけません。

新しい働き方や考え方が今回の感染症で皮肉にも大きく前進したと感じるのは私だけでしょうか。

今年も由良自治連合会は、周りの人たちの思いや、考えを大切にし、話し合いを持って進んでいきたいと思っています。

今後新型コロナウイルスとは長く共生していかなければなりませんが、皆様方も健康には十分気をつけて元気で明るく過ごしていただきますようお願いいたします。

終わりに、今回の感染症で医療関係者等の皆様に心より感謝を申し上げます。

由良川橋梁

子ども達に明るい未来を

栗田中学校　校長　岡田　隆幸

今年度の人事異動により、栗田中学校の校長として着任いたしました岡田隆幸と申します。

地域の皆様には、日頃より、本校の教育活動に対しまして、深いご理解と多大なるご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

栗田中学校は、一年生十七名、二年生二十名、三年生二十三名の合計六十名で四月のスタートを切りました。

しかしながら、昨年度からの新型コロナウイルス感染症の影響により、臨時休校や様々な行事等が規模縮小や延期・中止となりました。

地域の皆様にも大変なご心配をおかけしてきましたが、五月二十一日から学校を再開し、六月一日から本格的に教育活動を進めているところです。

新型コロナウイルス感染症に関しては、今後も様々な状況が想定されますが、「子どもの安心・安全」を最優先に教育活動を進めてまいりますので、ご理解、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

このような中ではありますが、栗田学院は一貫教育全面実施の2年目を迎えました。

また今年度は、学校と保護者・地域の皆様が知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、協働しながら子ども達の豊かな成長を支える学校づくりを進める、学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）本格導入の年でもあります。

栗田学院では、「未来を生きる心身ともにたくましい幼児・児童・生徒の育成」を目指して、小学校3年生から始まる総合的な学習の時間である「ふるさとみやづ学」を進めています。この中では、生まれ育ったふるさとを大切にする心を育み、地域の歴史や良さ、素晴らしさを学び、将来、地域を支える人を育てる学習に取り組んでいます。

人口減少等の地域課題はあると思いますが、身近な大人である教職員が、今こそ子ども達の視野をマイナス面ではなくプラス面に広げて、自分達の地域の「未来」を前向きに考えられるような内容にしていきます。

学院での学びを積み重ね、中学校卒業後に、「栗田学院で学んで良かった」と思ってもらえる学院づくりに努めてまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

話が少し変わりますが、本校の今後の生徒数について、お伝えいたします。今から四年後には中学校の生徒数は三十人台になる見通しです。十年前は約八十名、現在は六十名ですので、大幅な減少が見込まれます。

ここで私がお伝えしたいことは、単に生徒が減るということではなく、人数が少なくなっても地域の中にある学校として何ができるのかを皆様と相談しながら考え、教育活動を進めていきたいということです。この意味でもコミュニティ・スクールへのご理解とご協力を、よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、地域の皆様におかれましては、子ども達の健康にご配慮をいただくとともに、ご自身の健康にも気を付けてお過ごしください。新型コロナウイルス感染症の影響は大きなものがありますが、このような時だからこそ大人も子どもも、前向きにやってみようという「挑戦」の心を大切に、小学校・幼稚園と協力して、地域の中で学院の教育活動を展開していきたいと考えております。

ご挨拶

栗田小学校ＰＴＡ
副会長
山田　八十美

由良地区の皆様には、日頃より栗田小学校ＰＴＡ活動にご理解・ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

この度、ＰＴＡ副会長を務めさせていただくことになりました。由良小との統合当時よりお世話になりました栗田小学校に我が子が通うのも今年が最後となります。子どもたちの心とからだの健全な成長を願い、微力ながら精一杯尽力してまいりますので一年間よろしくお願いいたします。

今年度は4月7日に13名の新一年生を迎え、全校児童78名で心新たに新年度がスタートいたしました。しかしながら間もなく、新型コロナウイルスの感染拡大を受け4月半ばより臨時休校となり自宅待機を余儀なくされ、一学期に予定されていました大きな行事は次々と中止、または延期が決定いたしました。日常は一変し、これまで当たり前に経験していたことができなくなり、大人になっても覚えているような楽しい思い出を作る多くの機会を子どもたちが突然失ってしまったことに、親としてもただ当惑するばかりでした。

ようやく5月後半から段階的再開となったものの、例年通りとはいかないことも多く、初めての事態に手探りの状態が続いています。感染を警戒しつつ、ウイルスと共存する日常へ一歩ずつ前進している状況です。令和も2年目となり本格的に新たな時代が始まりました。元号に込められた『平和で穏やかな日々』が訪れるよう願っております。

また、本年度のＰＴＡスローガンに「挑戦・継続。そして、思いやり」を掲げ、子どもたちが様々なことに挑戦・継続できる環境を整えることを活動方針としました。10年後・20年後、社会に出ていく時に必要な力を備えるため、この時期に多くの経験をすることが大切だと思います。成功体験によって自信をつけるだけでなく、失敗をした時に、周囲との関わりの中で立ち直る体験や再挑戦を積み重ね、自己肯定感を育んでいってもらいたいです。

最後になりましたが、登下校時に毎日見守っていただいている近所の方々や駐在さん、挨拶運動や地区集会等の学校行事に参加してくださっている各地区の役員さんに、この場をお借りしまして心より御礼申し上げます。

今後とも変わらぬ温かいご支援をお願いいたしまして、挨拶とさせていただきます。

ご挨拶

栗田中学校ＰＴＡ　副会長　中西新一

本年度、ＰＴＡ副会長を務めさせていただくことになりました。何ぶん初めてのことで至らない点もあろうかと存じますが、皆様のご指導ご鞭撻をいただければ幸いです。

本来ならすでにＰＴＡ活動がスタートしているところですが、新型コロナウィルス感染症の影響により、学校は臨時休校となり、ＰＴＡ活動も延期、中止となっております。懸案の資源回収につきましては、状況にもよりますが、秋頃に予定させていただいております。

さて、今年度栗田中学校は新入生17人を迎え全校生徒60人、そのうち由良の生徒は3年生3人、2年生7人、1年生1人の11人でスタートしました。3年生は9年前に旧由良小学校に入学し、2年生から栗田小学校へ統合した学年です。1年間ではありましたが、地域にある小学校に通えたことが今となってはとても大切な時間だったと感じております。今、栗田学院のリーダーとして自信をもって活動できていることも実感しております。

今年度の生徒会のテーマは「つなぐ」です。心と心、人と人をつなぎ、地域とつながり、未来につなぐというたくさんの気持ちが込められています。新型コロナで大きな影響を受け、学習、部活全てにおいてストップがかかるという厳しい中でも、各学年の生徒たちはそれぞれに変化を受け入れつつ、6月から本格的に学校生活をスタートさせています。このような時こそ、「つなぐ」というテーマの実践が求められています。

いつかマスクを外して「大きな声であいさつ」が出来る日のために、ＰＴＡ活動も地域の皆様のご協力のもと、前向きに取り組んでまいりたいと存じます。

令和元年度宮津市立小学校・中学校人権標語優秀作品

- うれしいな　わたしの長所　みつけてくれた　（小学４年生）
- 笑顔はね　きずなをつくる　おくりもの　（小学５年生）
- 誰かじゃない　自ら作る　仲間の輪　（小学６年生）

2020年3月号の続き

脳梗塞を早く発見する方法Ⅱ

枡本　清

前ぶれ

脳梗塞の場合、一過性脳虚血発作（TIA）として前ぶれとなる症状が現れ、ほとんどは脳梗塞と同様に小さな血栓が血管に詰まることで起こり、暫らくすると血栓がとけて自然になくなり流れてしまい、短時間で血流が元に戻る。血流が止まっている間は脳塞と同じ症状が現れるが、血流が再開するとその症状は消えてしまい、実際ほとんどが3分～数十分の短時間で消える。

- 体の半分(顔を含む)がしびれる。
- 手足に力が入らなくなり、体がだるい。食事中に箸をポトリと落とす。茶碗、コップを落とす。
- ろれつが回らない。舌や唇の運動障害で言葉がうまく話せない。
- 言いたいことがあってもその言葉が出てこない。
- 相手の人と話す言葉が理解できない。
- 目の前が急に真っくら暗になり、片方の目が見えなくなる。
- 突然物が二重に見え始める。
- 足がもたついて体のバランスがとり難い。
- 嘔吐があり、脱力感がある。

あなたなら　どちらを選ぶ？

① 脳梗塞の前ぶれがある可能性があるので、たとえ短時間の発作であっても普段より「おかしいな」と思ったら速やかに医療機関に検査、受診をうける。（軽症のうちに検査し、必要なら手術等をうけ重症を予防する）

② たとえ症状が起きても短い間に消えてしまうため「年のせいだろう」と軽く感じ見過ごしてしまい受診しない。（近い将来、重症になる可能性が十分に考えられる。）

【短歌】　枡本清

田はみどり令和の春も過ぎ行きぬ水豊かに白鷺の群
里山に由良川が悠々白砂の浜贅なる由良に生きる白寿
高齢で働き続ける幸せは若き日の運動栄養とってこそ
ぢいちゃん新聞に大きく載っているよ百まで元気で頑張ってね（孫さんの声）

※令和元年度「すこやか大学文集」より一部抜粋

※今年100歳を迎えられます升本清様いつまでもお元気で

由良が光り輝いていた時代（12）

由良の歴史をさぐる会　加藤正一

由良の貴重な事実

古文書により大発見!!

大切に保存されていた米屋（磯田）四郎左衛門、新屋六右衛門、枡田、米屋（磯田）新四郎、加藤長助、岸田伊左衛門、左近吉兵衛、枡田、藤本、各家で見せていただいた古文書を、約五年以上をかけ府立郷土資料館の吉野氏、舞鶴郷土資料館学芸員小室氏を主体として調査、目録作りを行った際、各家の古文書に於いて由良の歴史にとって多くの貴重な資料が見つかった。

御願い!!

「各家の伝統ある歴史、蔵の肥やし、将来破棄されるかもしれない古文書に光を!!」

府立丹後郷土資料館に寄贈、寄託されたものの中からほんの一部を紹介させてもらう。

磯田四郎左衛門家
（京都府立丹後郷土資料館寄贈）

天保十四年（一八四三）卯八月

神歌幷太鼓

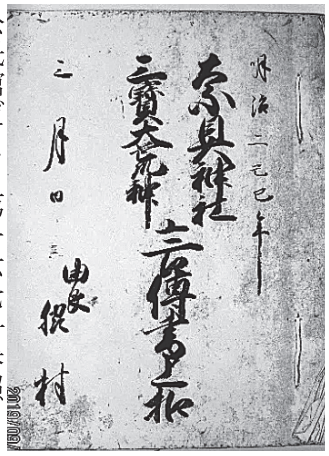
由良の祭りに行われる**船頭踊**を含む十五種の歌詞が書かれている。私の知る最古のもの。寛政二年（一七九〇）のものがあると言われる。十五種は

「神楽踊」「笠の踊」「矢倉踊」「葵踊」「十九踊」「奥州踊」「親方踊」「帷子踊」「芳野踊」「篠原踊」「佐以賀踊」「御寺踊」「鐘鋳踊」「駒引踊」「船頭踊」**祭礼**には**「神楽踊」「船頭踊」「笠の踊」**

この中の由良の秋祭りに由良神社で行われる**「神楽踊」「船頭踊」**はシンポチ・太鼓うち・地区民歌で構成される。

奈具神社・三寶大荒神言伝書上控

恐れながら申し上げ奉る口上覚



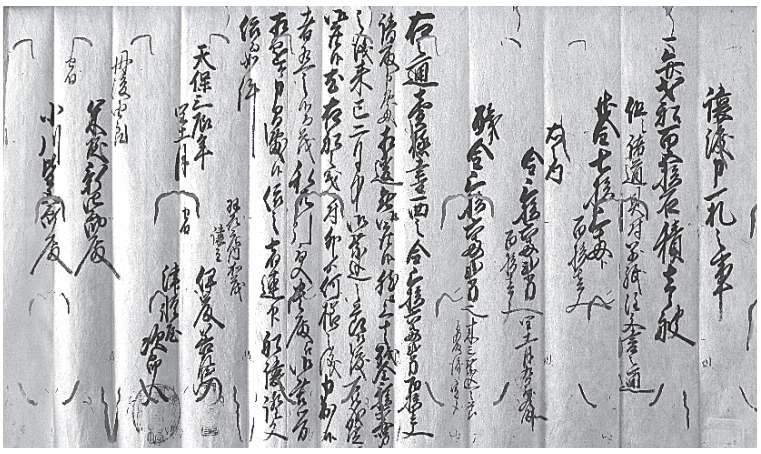
公民館だより第一六七号参照

一今般式内の神社御改に付き仰せ豪らせらる。則ち、式内の内当村氏神奈具神社三寶大荒神の由緒取り調べ申し出づべく様仰せ下さる。則ち、村方取り調べ候えども何分時罷りなきの儀は、御承知の通り往古より洪水・山抜け等夥しくこれ有り候趣、その上焼失を数度の土地柄にて由緒書付等相分り申さず候

後略

米屋新四郎家
（京都府立丹後郷土資料館寄贈）

庄内加茂の船主秋野栄蔵様から一五〇石の弁財船を天保三年（一八三二）購入した証文

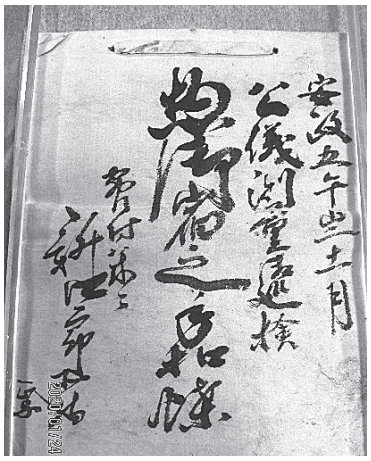


出雲崎の泊屋客船帳にも

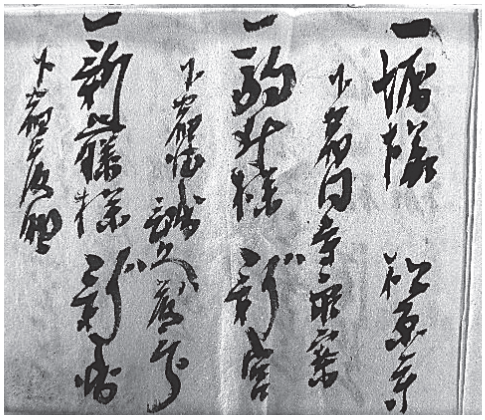
「新かた（新潟）にて去年（天保三年）中百七、八十石積船玉御求被成、乗出しに、御下り御立寄被遊候、とある。

二月四日朝出帆　小木行清徳丸

安政五年（一八五八）十一月
公儀測量巡検　惣御宿之手控帳

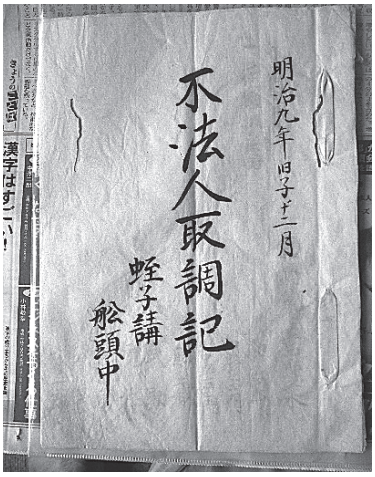


外国奉行が由良へ来た。



新たに御目付駒井様　新宮家に宿泊したことが判明。公民館だより百六十六号参照）

加藤長助家
（京都府立丹後郷土資料館寄託）
「不法人取り調べ記」明治九年



恵比寿講で取り決めた規定に反した行動を記録している。

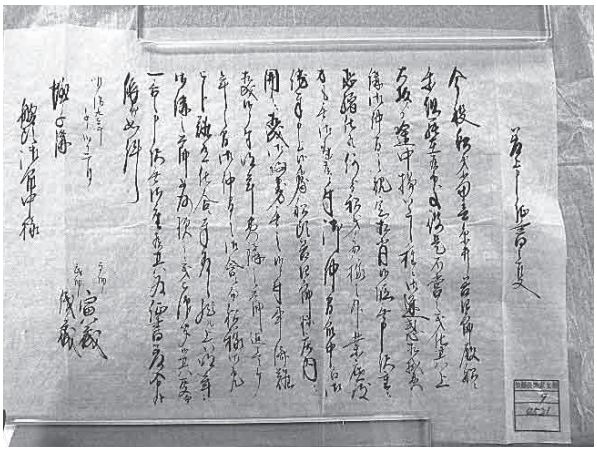
記録の一部

・荷物の疎略扱い　八幡丸四名
・大阪に揚がり　八幡丸六名
・酒田で途中揚り　越後屋三名

後略

これに記載された船名、人数の外に名前も書かれている。「大海原に夢を求めてより」

書かれた人は恵比寿講に署名押印した船頭達の船には乗ることが出来ない。当時の由良に於いて船乗りは、重要な働き口であり、収入源。その為多くの「一筆の事」すなわち複数の保証人を立て詫び状を入れた書状が多く残されている

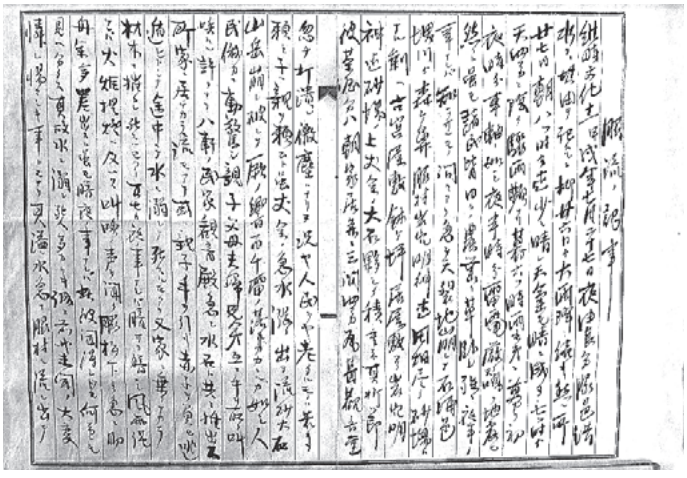


「差し上げ申す証書の事」

今般、私儀当春糸井善四郎船に乗り組み罷り在り候処、彼是不当の儀仕り、其上**大阪より途中揚いたし、種々御迷惑相掛、貴講御仲間の規定相背き候段、申し訳なく重々恐縮仕り候**、何分私儀舟稼の外業体致し方も御座なく候に付・・・後略

（舞鶴市資料館学芸員小室氏）

新屋六右衛門家
（京都府立丹後郷土資料館寄贈）
「脇流記事」



公民館だより　第一六七号参照

惟時文化十一年（一八一四）甲戌年七月二十七日夜由良分脇邑洪水その由を記す。

惣ち天裂け地崩れ石浦邑境川より森ヶ鼻、脇邑岩穴明神迄田畑尽く砂場となる。等々貴重な由良の歴史が解る資料が現れる

資料編No.10.

廻船（北前船）と由良

江戸中期（**享保十六年一七三一**）

「丹後国加佐郡寺社町在舊記」

「売船その数一三〇艘に及べり湊に船繋ときは舳を揃へ……中略」

出船の刻は

米、大豆、小豆、胡麻、辛子、菜種、繰綿、炭薪、串柿、竹木、時分相応の荷物を十分仕込み、・・・・川嵐に帆を挙、先ず沖の嶋を目当てに駈けだす。

大海の最中に出れば磁石をもって方格を見合わせ、

・越前、越中、加賀、能登、出羽の庄内、秋田、坂田、佐渡島

・西は因幡、伯耆、出雲、石見、長門、上関、下関、

・津々浦々へ入船して思い々に商売す。

・他国は知らず丹の後、シュウに於いては由良を凌ぎ繁昌の湊また有るべからず。廻船交易が活発に行われたことがわかる。ところが、由良の廻船も既に海運に早くから関わっている。

（兵庫県香住　宮下氏資料）

一、今子浦諸国廻船入船帳

享保四年（一七一九）

三月二十三日

六人乗り　七右衛門

享保五年（一七二〇）

四月二十七日

七人乗り　浜崎屋庄三郎

九人乗り　与一郎

享保六年（一七二一）

四月七日

七人乗り　米屋忠兵衛

四月十九日

七人乗り　浜崎屋庄三郎舟

九左衛門

享保七年（一七二二）

四月八日

六人乗り　浜崎屋九左衛門舟

庄五郎

五人乗り　新屋佐右衛門

享保八年（一七二三）

八月十六日

八人乗り　新屋六右衛門

享保九年（一七二四）

三月二十七日

七人乗り　米屋惣三郎

（田嶋家先祖由来書）

一、佐州加茂郡真更川村鴨島

船宿　土屋三十郎

「諸国船入津留帳」

享保年間の入津記録

享保二十年（一七三五）丹

後田辺油良庄　米屋久兵衛

五人乗り

京都府教育庁　吉野氏資料

一、「預り申金子の事」

合金千百四十両ハ　但上小判也

中略

享保弐拾壱年（一七三六）辰三月

新発田町

金子預り主　大野屋九兵衛　印

請人　斉藤加兵衛　印

同断　中村藤蔵　印

金主丹後由良

新屋　惣兵衛殿

同　六右衛門殿

同　米屋　源右衛門殿

同　浜屋　久五郎殿

同　升屋　市右エ門殿

同越前三国　平野屋吉兵衛殿

取次宿　小川屋長右衛門殿

（東京大学資料編纂所蔵）

一、借用申金子之事　寛政七年

（一七九五）

一、金五両者（印）

右者今度要用二付、借用仕只今慥二受取申処、実正二御座候、**二番下り**之節元利共急度返済可仕候、万之一二番下り不申候ハヽ当秋中迄二無間違為相済可申候、為後証金子借用証文、仍如件、

寛政七年卯五月廿五日（一七九五）

丹後由良　升屋半七（印）

庄内酒田　尾関又兵衛殿

（講演会資料　京都府立大学藤本仁文准教授）

前ページは由良の廻船の歴史にとって非常に重要な内容を含んだ資料である。

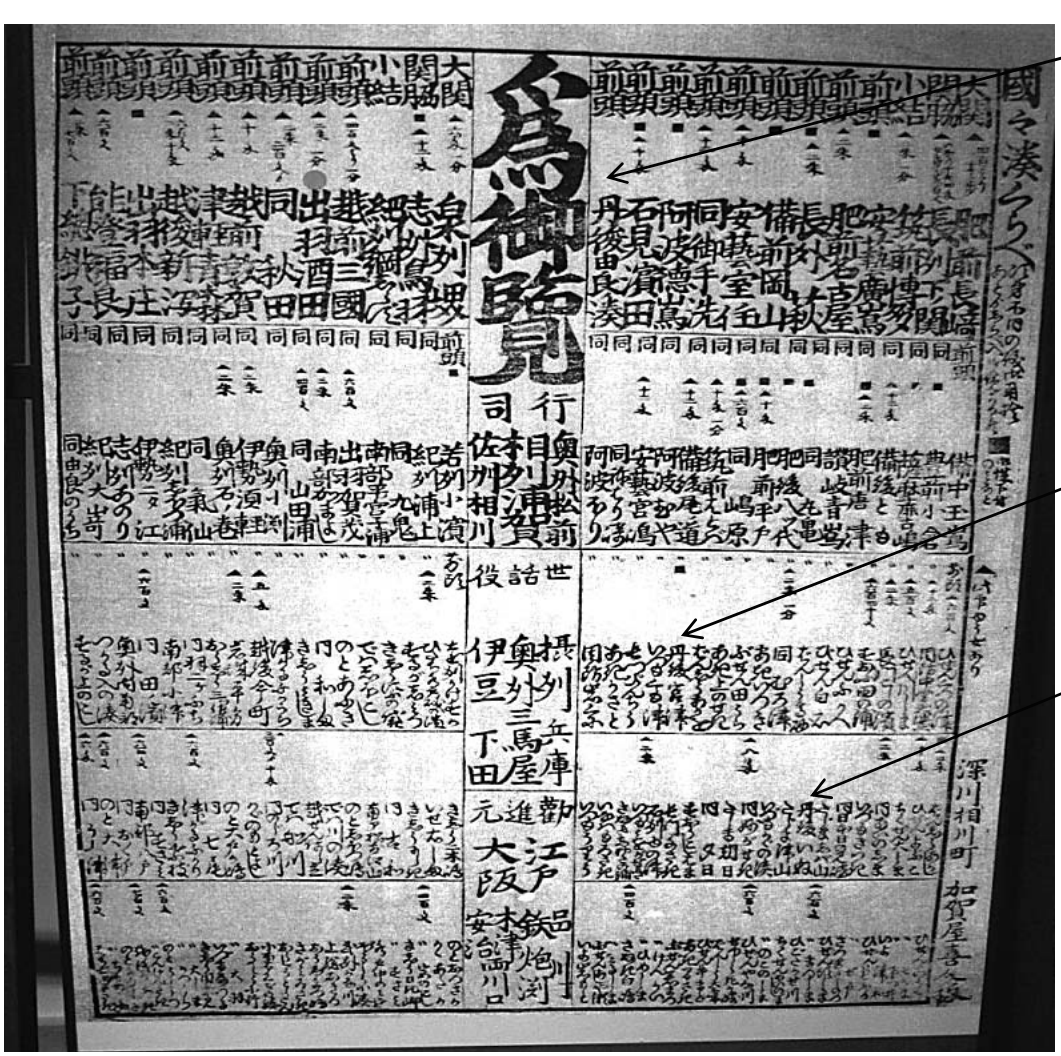
今迄由良川の舟運の資料田辺藩の享保一九年（一七三四）「定」・丹後国加佐郡寺社町在舊記享保一六年（一七三一）売船その数一三〇艘・・を基本に考えてきたが、享保四年（一七一九）には難所と言われる経ヶ岬を超えて兵庫県の今子浦に寄港している。子孫の方にはわかる事だと思いますが、米屋は源右衛門系。浜崎屋、新屋、など新しい内容が含まれる。今後の報告で述べたい。

享保二十一年（一七三六）の「預り申金子の事」由良人五人と越前の平野屋で一〇四〇両、今の金額でいくらになるのだろう。ざあっと一億円以上？

これだけの金額を小判で所有していた事は驚きと同時にどうしてこれだけの金を稼いだのか。まだまだこれから資料が現われることを願っています。

湊番付け表

国々湊くらべ（山形県酒田山居倉庫に掲げられていた）江戸時代



日本全国の湊、特に北前船（廻船）が寄港した、よく知られた湊が網羅されており、由良は幕内上位にピックアップされ、この時代に於いて由良湊は良く知られた湊であったことが解る。

北前船・船頭

宮津市が北前船日本遺産に追加認定された時（平成二十九年四月二十八日）

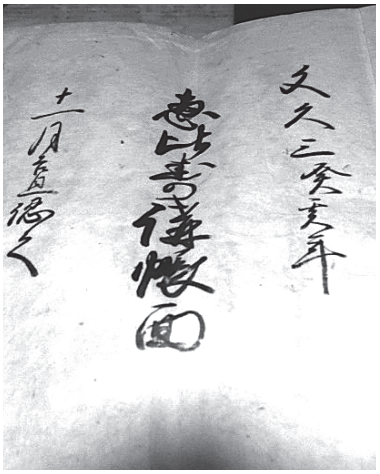
「広報誌みやづ」二〇一八・六

本市においては、旧三上家住宅で知られるように、廻船業を営み富を得た**船主の存在**、また、廻船や北前船を操縦する**船頭を特に由良地区から多く輩出した**という歴史があります。

由良の北前船に関わる研究者とも由良地区から多く輩出されたと言われる。

その基本的な資料は文久三年（一八六三）の恵比寿講帳面にもとづくものと思われる

（加藤家文書）



船頭と水主の間、また水主たちの間の上下関係は大変厳しく、給金も相当な差があった。このため、乗組員の中には不満を溜めるものもあったが、航行に支障をきたせば即海難につながることから、それらを未然に防止する必要があった。主として船頭達が集まって十年ほどかけて「恵比寿講」という講を組んだ。

①港へ入船した際の無益な長逗留や博打・大酒・遊女などに身を入れることの禁止

②乗組員は船頭の許可なく陸に上がり宿泊する事の禁止

③乗組員が寄港地で逃げ出した場合は、今後講を組む船には乗せない事

④乗組員が船頭へゆすりがましいことの禁止

⑤船主や船頭に損をかけた人物の再乗り組の禁止

などが取り決められている。

各地の船に乗り込んだ船頭や水主全体の利益を保護し、船頭や水主の行動を制約することで、船内での秩序と航路の安全が保たれた。恵比寿講を組織するまでの経緯を記す。

①恵比寿講には「由良海道船の船頭」と「他所出之船頭」が参加していること

②「去子」年の暮から問屋などと講の組織に付相談をしていた

③講の組織に当たっては神酒を交わし規定を定、船頭中連印をした。

④水主には船頭からこの内容を申し聞かせる

⑤心得違いのものがあれば、船頭、水主とも仲間から除く

（府立郷土資料館　「丹後郷土資料館調査だより」）

恵比寿講帳面　船頭中　連印

脇村

九郎右衛門（印）

吉兵衛（印）

良助（印）

善三郎（印）

伊兵次（印）

定助（印）

文蔵（印）

平五郎（印）

善助（印）

与八（印）

与次右衛門（印）

束崎

平助（印）

万吉（印）

浜野路

弥七（印）

伝七（印）

六兵衛（印）

替蔵（印）

藤右衛門（印）

嘉市郎（印）

清蔵（印）

徳右衛門（印）

市右衛門（印）

ワ　利七郎　（印）
ハ　善四郎　（印）
ハ　惣八　（印）
ハ　市太郎　（印）
ハ　喜六　（印）
ハ　長五郎　（印）
ハ　市郎兵衛　（印）
ハ　久右衛門　（印）
ハ　平左衛門　（印）
ミ　弥左衛門　（印）
ハ　惣治郎　（印）
ハ　亦市　（印）
ツ　半四郎　（印）
マ　徳兵衛　（印）
ワ　利喜蔵　（印）
ワ　与助　（印）
マ　市五郎　（印）
ワ　初蔵　（印）
ハ　亦蔵　（印）

計四十二名

（ワ：脇、マ：松下、ツ：束崎、ハ：浜野路、ミ：港　地区名と思われる）

署名押印順

これ以外にも絵馬・他古文書より多くの船頭名が確認できる。万蔵・市三郎・皆蔵・亀吉・久兵衛・吉左衛門・清八・嘉吉・庄左衛門・善四郎・吉蔵・長助・善右衛門・栄治郎・又蔵・市蔵

その他、由良には残されていないが、他所船の船頭として活躍した資料がある、柚木学著、「石州浜田御客船帳」

一、天保十一年四月二十四日（一八四〇）羽州庄内酒田
尾関又兵衛様万代丸沖船頭
茂右衛門　生国丹後由良

一、天保十五年六月一日（一八四四）羽州庄内酒田
尾関又兵衛様万福丸沖船頭
磯吉　生国丹後由良

一、安政四年七月二十八日（一八五七）大阪二本松
日高半兵衛様宝樹丸船頭
惣太郎　生国丹後由良

一、明治四年八月十二日（一八七九）大阪二本松
日高半兵衛様善寿丸船頭
利喜蔵　生国丹後由良

一、明治九年七月二十一日（一八七六）大阪玉造橋北ノ角
嶋谷重次郎様
大一丸船頭
市蔵　生国丹後由良

これらより由良は多くの船頭を輩出したと言われる所以である**由良の戸数は**恵比寿講が結ばれた文久三年と年代はずれるが、**「郡中高究付覚」延享三年**（一七四六）によれば三九二戸である。驚くことに約十軒に一軒は船頭がいたことになる。

船頭になるには誰でもなれるわけではなく、少なくとも次の要件を満たす必要がある。

・読み
・書き
・計算（ソロバン）
・航海術（磁石のみによる）
（天気予測力）
・商売の能力（安く買い、高く売る、市場予測）
・部下管理能力（途中降り、等乗組員管理）
・人格（船主・取引先の信頼関係）

特に基本的能力として、読み書き計算（ソロバン）が必須条件である。この四〇〇軒弱の村でこのような能力をどのようにして得たのだろう。

次号に詳細を述べたい。

「新しい生活様式」の実践例

（１）一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の３つの基本：①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

□人との間隔は、できるだけ２ｍ（最低１ｍ）空ける。
□会話をする際は、可能な限り真正面を避ける。
□外出時や屋内でも会話をするとき、人との間隔が十分とれない場合は、症状がなくてもマスクを着用する。ただし、夏場は、熱中症に十分注意する。
□家に帰ったらまず手や顔を洗う。
　人混みの多い場所に行った後は、できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
□手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗う（手指消毒薬の使用も可）。

※　高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

移動に関する感染対策

□感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
□発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。接触確認アプリの活用も。
□地域の感染状況に注意する。

（２）日常生活を営む上での基本的生活様式

□まめに手洗い・手指消毒　□咳エチケットの徹底
□こまめに換気（エアコン併用で室温を28℃以下に）　□身体的距離の確保
□「３密」の回避（密集、密接、密閉）
□一人ひとりの健康状態に応じた運動や食事、禁煙等、適切な生活習慣の理解・実行
□ 毎朝の体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養

（３）日常生活の各場面別の生活様式

買い物

□通販も利用
□１人または少人数ですいた時間に
□電子決済の利用
□計画をたてて素早く済ます
□サンプルなど展示品への接触は控えめに
□レジに並ぶときは、前後にスペース

娯楽、スポーツ等

□公園はすいた時間、場所を選ぶ
□筋トレやヨガは、十分に人との間隔を
　もしくは自宅で動画を活用
□ジョギングは少人数で
□すれ違うときは距離をとるマナー
□予約制を利用してゆったりと
□狭い部屋での長居は無用
□歌や応援は、十分な距離かオンライン

公共交通機関の利用

□会話は控えめに
□混んでいる時間帯は避けて
□徒歩や自転車利用も併用する

食事

□持ち帰りや出前、デリバリーも
□屋外空間で気持ちよく
□大皿は避けて、料理は個々に
□対面ではなく横並びで座ろう
□料理に集中、おしゃべりは控えめに
□お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避けて

イベント等への参加

□接触確認アプリの活用を
□発熱や風邪の症状がある場合は参加しない

（４）働き方の新しいスタイル

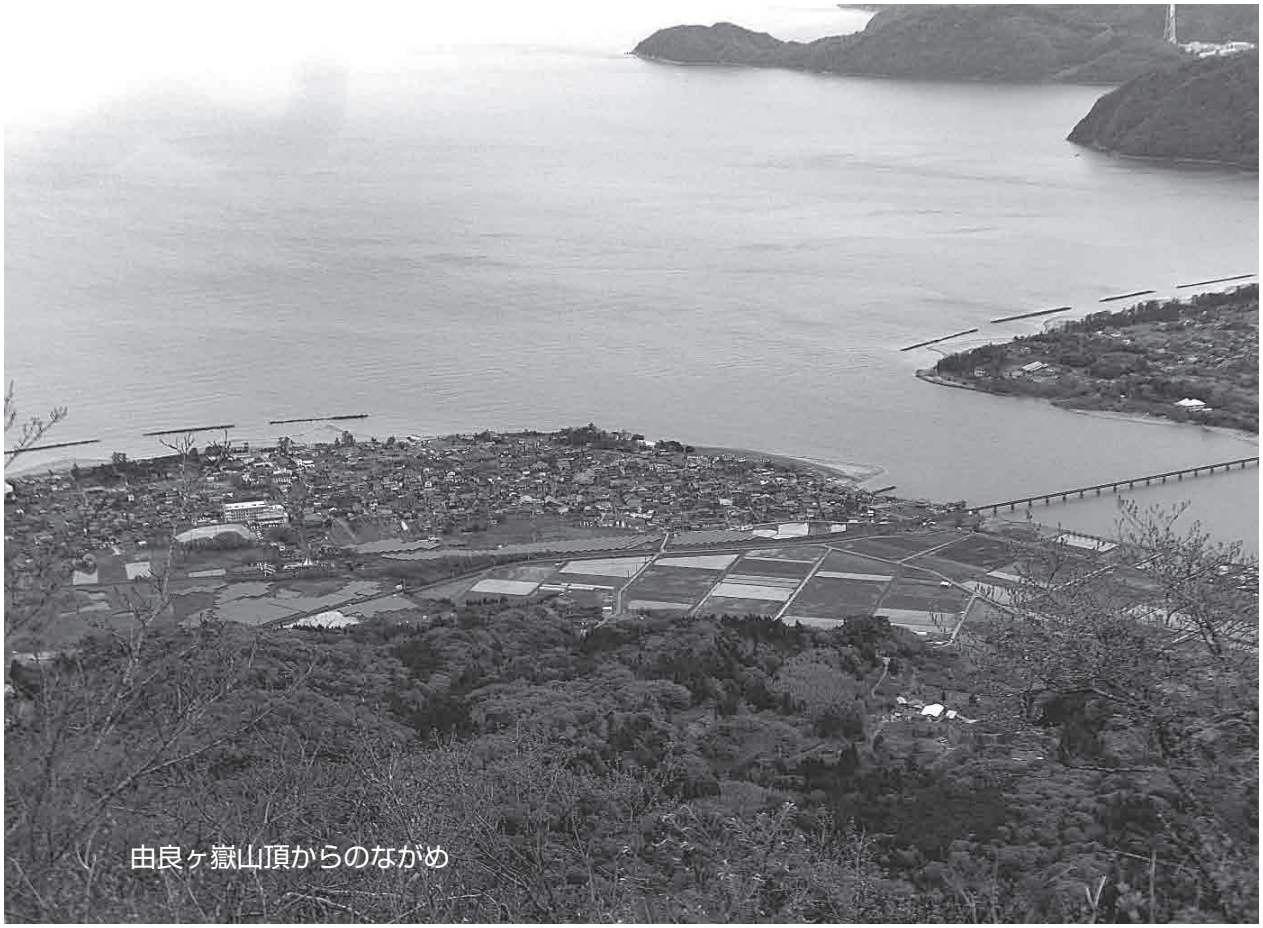
□テレワークやローテーション勤務　□時差通勤でゆったりと　□ オフィスはひろびろと
□会議はオンライン　□対面での打合せは換気とマスク

※　業種ごとの感染拡大予防ガイドラインは、関係団体が別途作成

編集後記

今年の春はどこに行ってしまったのでしょう。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、４月には緊急事態宣言が全国に発出され、楽しみにしていた様々な春の行事が中止や延期を余儀なくされました。その中でも後ろ髪を引かれたのは、「昭和の日」に予定されていた由良ヶ嶽登山です。由良に移り住んで３年目。いまだ参加したことがなく、中止の声を聞くまでは今年こそはと意気込んでいたからです。みなさんはどうですか。心待ちにしていた方も多いのでは。妻の話では小学生の頃に始まり、学校行事としても毎年登っていたとのこと。実に半世紀を超える歴史があり、由良地区の伝統と呼んでも過言ではないかと思います。昨年の公民館だよりには、地元や近隣以外からの参加者も多く、京阪神のほか、遠くは富山県からの参加もあったとありました。また、毎年参加されるリピーターも多いと聞いています。次回の開催には必ず参加させていただき、道中の景色とおしゃべりを楽しみ、話に聞く山頂の素晴らしいパノラマと澄み切った空気を思う存分に満喫したい。後にはその情景を公民館だよりで、みなさんにお伝えできればと思いつつ、感染拡大の収束を切に願っています。

文化部員　前田



由良ヶ嶽山頂からのながめ